年　組　番号(　　)　名前

面白い生き物

新種ヒトデ発見

いわき市のアクアマリンふくしまは3日、同館の職員日比野麻衣さん(39)が北海道羅臼沖で新種のヒトデを発見したと発表した。「ホウユウシアワセモミジガイ」と命名され、2月13日に生物学を主に扱う科学誌「ジャーナル・オブ・ナチュラルヒストリー」に掲載された。同館は標本などを同館2階「飼育員の研究レポート」に展示している。

2023年5～7月に行われたヒトデの種を調べる調査で、水深930～1170㍍の地点で採取した。その後、神戸大の小林格博士や同館らの共同研究で新種と公表された。

新種は南極周辺にのみ分布する1種しか知られていなかったシアワセモミジガイ属に属し、今回の個体は別種であることが判明。その結果、シアワセモミジガイ属は1属2種となり、南半球だけでなく北半球でも生息し、より広域に生息する可能性が示唆された。

腕が5本で、背中の骨がクローバー状、腕の側部にあるブロック状の骨が細く目立たず、管足に吸盤上の構造があることなどが特徴。背中の骨が「四つ葉のクローバー」に似ていることから和名を「シアワセモミジガイ」とし、「ホウユウ」は新種の採取時に乗船した漁船「豊佑丸」への思いを込めた。

日比野さんは「これほど希少な種だとは思わなかった。ヒトデにとっても多様性が高い羅臼の海の魅力を、また一つお伝えできてうれしい」と語った。

アクアマリンで展示

ホウユウシアワセモミジガイの生体（アクアマリンふくしま提供）▼

珍しい生き物の観察を楽しむ来館者

ムシテックで企画展

珍しい生き物などを集めた「きも？　かわ？　生きもの展」が1日、須賀川市のムシテックワールドで始まった。日本での生息や飼育が難しい生き物など約30種が来場者を出迎えている。4月6日まで。

特設コーナーには、巨大ムカデやサソリ、外国のダンゴムシ、メキシコサラマンダー（ウーパールーパー）、変わった模様のカエルなどを展示。家族連れらが水槽をのぞき込み、興味深そうに観察を楽しんでいる。開館時間は午前9時～午後4時半（最終入館は同4時、個体の状況によって変更の場合がある）。毎週月曜日のほか、祝日の翌日が休館日。入館料は一般410円、高校生・大学生200円、小・中学生100円、未就学児は無料。

問い合わせはふくしま科学振興協会（電話0248・89・1120）へ。

▲ 3月5日 福島民友新聞掲載

5W1H を読み解こう

いつ(When)
発見を発表したのはいつ？

どこで
(Where)

だれが
(Who)

なにを
(What)

どのように
どうやって
(How)

それはどのように見える？

なぜ
どうして
(Why)

なぜそのような名前に？

記事を読んだ感想や意見を書いてみよう。(330 字程度)

みなさんはなにか面白い生き物をみつけたことはありますか？
家族やお友達にも聞いてみましょう。

「ジュニア窓」にとうこうしよう　福島民友投稿のページ「窓」に送る